

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100216		
法人名	社会福祉法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム三瀬		
所在地	佐賀市三瀬村三瀬38番地1		
自己評価作成日	令和5年3月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和5年5月30日	外部評価確定日	令和5年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

リビングからの眺望がすばらしく、居ながらにして緑豊かな三瀬村の景色を優雅に満喫できます。全室個室で各部屋にトイレも完備しており、プライバシーの確保ができています。(トイレに行くまでの距離と時間を短縮でき自立に向けてのメリットがあります)ご自分の個室で自由に過ごして頂きながらもご自身の意思でリビングでも過ごして頂けるよう声掛け等の配慮をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

空、山、川、星空、豊かな自然が広がる三瀬村にグループホーム三瀬はあります。窓を開けると鳥のさえずりが聞こえてきます。母体は地域の医療、福祉に取り組んでいる医療法人敬愛会、県下に多くの福祉施設を営まれている。グループホーム三瀬の隣には特別養護老人ホームがあり、広い敷地は日々の散策のコースともなっている。施設の中は玄関からまっすぐに伸びた広く長い廊下が印象的である。開設5年目、開設当初からの職員が多く「優しく思いやりを持って、住み慣れた地域の中で支え合いながら楽しく過ごしてもらいたい」「その人らしい暮らしを手助けしたい」との強い思いを感じる施設である。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念として、 ・私らしく生きるために、人と触れ合い、優しさと思いやりを持って、心と体の健康をサポートします。 ・住み慣れた地域の中で、共に支え合い、自らの能力を活かし、穏やかに暮らすことができるように努めます。 理念の共有方法として、オリエンテーション時の説明、事業所やリビング内に掲示し、理念にある接し方を日々努めております。	開設時に作った理念である。事務所、ロビーなどに掲示されており、日々の業務の中でも共有、また確認することができる。月1回のスタッフ会議は理念を職員全体で話し合い、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナウイルス感染予防に伴い、訪問・慰問等の対応は、お断りをさせていただいております。 以前は、地域の方々との定期的なボランティア訪問(生け花交流など)を行い、地域とのふれ合いに努め、近隣へ外出などを行い、法人主催の敬老秋祭りや婦人会による慰問などへ、参加(見物)し交流に努めておりました。 4月より、家族面会を玄関先から事務所内、アクリル板越し、マスク着用し面会時間を決め緩和の方向へ勧めております。	地域との交流の機会は少ない、敷地内の散歩中などに出会う地域の人と挨拶を交わすことがある。また家族との面会はコロナ禍でも減ることはなかった。職員は地域との付き合いが大事であることを意識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現事業所状況においては、力不足で実施までつなげる事は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しております。佐賀県内の感染比率状況を見ながら、開催や書面で各委員へ利用状況、サービス状況等を報告、ご意見を頂いております。感染予防を行いながら開催し、対面での会議を増やしております。 今後、佐賀県内の感染比率状況を見ながら、徐々に行事や地域活動など、情報を頂きサービス提供へ活かしてまいります。評価等への取り組みや改善案などについても、必要に応じて随時報告に努めております。	対面で開催するときは母体施設の会議室を使っている。今は感染対策の意味から施設関係者と地域の代表者で行っているが、以前のように利用者、その家族も参加しての運営推進会議を開催したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者である佐賀中部広域連合や地域包括支援センター、行政等と連携に努めております。 必要に応じ空き状況や利用に関する相談、料金などの情報交換を行っております。	介護認定の更新、運営推進会議の報告など行政との行き来は常にあり、担当者とは何でも相談できる関係である。利用者に生活保護課が担当する方が居られ、毎月生活の様子を報告している。また行政の担当者より入居の相談を受けることもある	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関以外の出入口は段差もあり、危険防止の為、昼夜施錠しているが、散歩や建物周りの草むしりや掃除などの活動を行う事で、閉塞感を感じさせないように努めております。 身体拘束に関するマニュアルを作成、職員へ周知徹底に努めております。 運営推進会議で、入居者に対する身体拘束状況を報告しております。 ケア提供状況に応じて、身体拘束にあたるか否かなど検討確認を行い、身体拘束がないよう取り組んでおります。	身体拘束の事例はない。行動の制限は行わず、見守り重視としているが、利用者の状況により、玄関の施錠を行う時もある。常時の施錠はしていない。 身体拘束の研修は年2回実施。高齢者の権利擁護などについて学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止のための指針、マニュアルを作成し、職員へ周知徹底に努めております。また、入浴時に全身観察にも留意しております。 年1回法人施設内において、高齢者虐待についての職員研修会に参加。研修会で学んだ事を職員同士情報を共有しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はあんしんサポート、成年後見制度について学び、必要に応じ該当者があれば、関係機関へ相談できるよう努めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約手続きの場合、書面にて説明し同意を得ている。気になる点については、理解が得られるよう分かり易い言葉で説明を心掛けております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務室玄関側に、意見箱を設置。 契約説明の際に、第三者委員や苦情相談窓口の説明を行っております。 ご家族等の意見や要望については、運営推進会議や面会来所時に、意見や要望等があれば、必要に応じて、速やかに改善・対応を行うよう努めております。	玄関には本の形をした意見箱(手作り)が置かれている。意見というよりは感謝の意のものが入っていると管理者が言われている。面会時などに出た要望などは月2回開催される代表者会議で伝え、反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会議を開催。会議以外にも常日頃より、職員から意見が上がった際、速やかに小ディスカッションを行い、試し期間を設け新たに取り組む業務改善や効率度を図り、処遇改善に努めております。	日頃から業務についてなど管理者と職員のやり取りは積極的に行われている。施設の中で改善できることはその場で解決、法人全体に関する問題は管理者が代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員の努力や目標に対する姿勢を把握し、職員の悩みや意見を聞く場を設け処遇改善、環境整備改善などに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内施設内研修会や施設外研修会へ参加できる機会を設けております。 事業所内においては、スタッフ会議を通して、研修報告の伝達を行っております。 また、介護業務に役に立つ情報があれば、資料を配布し、職員間での情報共有に努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ウェブ研修の活用や本部施設で外部講師を招いての研修会参加を取入れ、法人内研修会や勉強会などで意見交換を図り、サービス向上に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、ご本人並びにご家族と話し合いを設け、困っている事や、不安な事や意向など、ゆっくり傾聴できるように努めております。 入居初日は、不安なく過ごせるよう、職員は声掛けや促しを意識し、ご本人の好まれる居心地のよい環境作りの配慮に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望、サービス利用についての意向や思いなど、傾聴に努め可能な限り意向を尊重し対応に努めております。状況を確認・把握しながら必要と思われる提案を行い、慎重に対応へ努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用前に、ご本人とご家族の要望を伺い、優先順位を考えたくうえでサービスを利用して頂けるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご本人共に暮らしを営み、協働する事で人生の先輩から学んだり、喜びや悲しみも分かち合えるように、関係を築けるよう努めております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際は、積極にご本人の状態を伝えながら、同時にご家族の意向も伺い、ご家族にも出来る事は協力してもらう事で、共にご本人を支えて頂けるように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防に伴い、外出や面会を制限をさせていただいております。今後、外出や面会制限の緩和が進めば、ご家族の協力の元、馴染みの床屋や自宅への外出・外泊を開催できるように努めます。近所の方や知人の来所があった際、ゆっくりと交流できる場を提供できるように努めます。	対面での交流は控えている状況である。携帯電話などを使って、主には家族との交流は継続できている。また病院受診時など待合室で馴染みの人と出会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの余暇活動や会話がしやすいよう、座席配置に配慮しております。協働作業を行う際も、入居者様同士の間関係を把握し、スムーズに活動が行えるよう配慮しております。対話の少ない入居者には、可能な限り個別に職員が声掛け配慮に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所されても、ご家族とは入院経過を伺い、必要に応じて関係機関等との連携や情報提供に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人、家族に思いや暮らし方の希望、入居に対しての意向も把握し、アセスメントや日常会話の中からこれまでの生活習慣や生活リズム、過ごし方など情報収集に努めております。意向把握が困難な場合は、無理に入居を勧めずご家族へ確認、本人の意向把握に努めております。	日々の関りの中で、言葉や表情などから想いを推し測ったり、それとなく確認するようにしている。また家族や関係者からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報・アセスメントシートの様式及びセンサー方式を活用する事で、生活歴や暮らし方、生活環境など情報収集に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間生活変化表を活用する事で、生活リズムや心身の状態を把握し、小さな変化に気付いて現状を把握できるよう努めております。また、職員同士小まめに状態の変化や対応の工夫など情報共有に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議やケアプラン作成協議ノートを活用し、随時及び更新前月にスタッフ職員よりプランに対する評価、新たな問題(ニーズ)など情報、意見を収集。アセスメント表を作成し、新たなケアプラン(介護計画)の作成に努めております。また家族へ課題とケアのあり方について面談や電話で意見を伺い、ケアに対する希望を賜るよう努めております。	管理者が介護計画作成者である。日々の関わりの中で得た情報のほかに、スタッフからの情報、本人や家族の意向を踏まえたものである。モニタリングは毎月のスタッフ会議で行われている。状態の変化により見直しが行われ必要があれば計画の変更が行われる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌へ、健康状態や日々の状況を個別に記録。申し送りなども含め、入居者の状態変化など情報共有に努め、臨機応変な対応や計画見直しに活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族のニーズに対し、可能な限り柔軟な対応に努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、コロナウイルス感染防止の為、ボランティアの受け入れや地域への参加などは自粛しております。 今後、佐賀県内の感染比率状況を見ながら、ボランティアの受け入れ、ボランティアの来所によって、地域交流の場となるよう努めます。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望される方と、往診を希望される方に分かれ、ご家族の協力も得ながら受診や往診の対応へ努めております。 必要に応じて、かかりつけ医との連携に努め、健康維持に繋がるよう支援に努めております。	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と協力しながら通院介助を行っている。複数の医療機関と関係を密に結んでいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要に応じて、かかりつけ医の看護師及びご家族へ相談、報告し、早期診察や対応ができるよう支援に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際、病院関係者(ソーシャルワーカー)と情報交換を行い、入院中もご家族やソーシャルワーカーと連携に努めております。退院になった場合も同様に、連携を通して関係づくりに努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人より、当施設では、終末期の対応は行っておりません。 重度化した場合や終末期のあり方については、契約の段階で、介護の重度化へ状態が変化した場合、対応可能な他施設への調整支援に努めております。	入居時に終末期の看取りの対応はしないことの説明を行い同意を得ている。要介護3を目安とし、利用者、家族と話し合い、希望される施設を紹介している。敷地内にある特別養護老人ホームを紹介することもある。面会などに行き、スタッフと情報交換し、より良い支援につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議や勉強会などで、AED、緊急セットの配置、使用方法の確認を定期的に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署や地域の方の協力も得て、法人全体で避難訓練、自主訓練を実施しております。訓練に参加できなかった職員に対し、スタッフ会議時に伝達講習を行っております。	隣接する特別養護老人ホームと合同で訓練が行われている。利用者、地域からの参加もある。訓練後の反省点などは代表者会議やスタッフ会議などで確認されている。山間部のため土砂崩れによる災害や孤立の可能性がある。備蓄品は管理されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員、個人情報保護に関する契約を交わし、ご利用者一人ひとりを尊重した言葉かけに、十分配慮して対応を努めております。	個人情報に関する書類は事務所で管理されている。接遇に関する研修は計画的に行われており、方言も使いつつ、馴れ合いにならないよう職員は心掛けている。人生の先輩としての敬意を忘れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ分かりやすい言葉かけを行い、自己決定ができるような対応に努めておりますが、ご本人の希望に添えていない場面もあり、職員が不安や申し訳ない思いが生じております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の大まかな流れはあるものの、個人への声かけ、随時意向を確認しながら、自身の生活ペース、気分や意向を尊重して気持ちに寄り添いながらゆっくり過ごして頂くように努めております。しかし、限られた職員体制の中で、職員のペースで動いてしまう事があり、入居者に不安な思いをさせる場面もあります。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持、季節に合った装いについて、気を付けておりますが、おしゃれ等は出来る限りご自身で取り組んで頂いております。ご家族の協力が得られる入居者様は、馴染みの店で散髪をして頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に、職員と一緒におかずのつぎ分け、各お膳へ配る作業や、食後、テーブルやお膳拭き作業を入居者様皆さんで協働して頂いております。また、朝食作りの下ごしらえとして、野菜を洗ったり、切る作業も可能な限り職員と協働して頂いております。 皆さんで食事の準備等の協働作業をする事で、食事への楽しみや期待感、食べる喜びなどを感じて頂けるよう支援に努めております。	朝食は職員が作り、配膳などは利用者と一緒に 行う。昼、夕食は隣接する特養から管理栄養士がつくった献立を基にした食事が届く。米を洗ったり、材料を切ったりなどの作業を一緒に 行うことは暮らす、生活するという大きな意味があると管理者、職員は感じている。月に1 回手作りおやつ の時間がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の献立に基づく食事の提供を行っております。 自ら水分を積極的に摂られない方には、職員が声かけ促しを行っております。また、レクリエーションの後や体操の間、休憩時など、皆さん一緒に水分補給ができるような、環境作りに努めております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け促しを行い、状況に応じて義歯洗浄やケアの介助を行っております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、ご本人の訴えと職員の声かけ支援でトイレ誘導や、聞き取りで個々に合った支援・介助を行っております。	自室にトイレがあり、プライバシーが守られている。自尊心に配慮しながらの声掛けが行われている。夜間は見守りのためにセンサーマットが使用されている。トイレにはL字型の手すりが設置され、背もたれもあり安全に配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取量や水分摂取を意識し、軽運動を毎日実施しております。排泄チェックにより、体調維持に繋がるよう、個々に応じて排泄状況の把握に努めております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの要望や心身状態を考慮しながら、入浴は週2回提供いたしております。その日の体調やご本人の都合に応じて、入浴日を変更するなど、ニーズに合わせた支援も行ってまいります。	浴室はチェアインバスが設置されている。ジェットバス機能があり利用者は心地よい入浴時間を過ごされている。利用者にも職員にも優しい浴室環境である。脱衣所もきちんと整えられており、気持ちが良い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や夜間の環境整備に努め、安眠の支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセスメントなどから、服薬情報、状況確認を行い、ご家族、事業所看護師等を中心に処方に基づいた服薬ができるよう支援に努めております。内服薬で気になる点や様態の変化について、随時ご家族、かかりつけ医等へ報告、相談を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり心身の状態やその日の気分などに応じて、余暇活動の提供や掃除、食器洗い、おかずのつぎ分け、洗濯干し・たたみなど、役割を持って過ごして頂けるよう支援に努めております。天気の良い日は、事業所周辺の散歩や外周りの草取り、洗濯物を干すなど、自宅での生活を意識した支援に努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、コロナウイルス感染防止の為、外出行事は自粛しております。普段は、暖かい季節(4月～10月頃)事業所や隣接する事業所の敷地内を散歩する事を行っております。今後、佐賀県内の感染比率状況を見ながら、外出行事が出来るように努めております。また、ご家族に外出行事の付き添い協力の促しにも努めております。	天気の良い日はできるだけ外に出るようにしている。法人の敷地が広く、敷地外に出なくても散歩には十分の環境がある。地域の感染状況を見ながら遠出も検討したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の継続、認知力低下予防などの意味で金銭管理や取り扱いは大切だと考えておりますが、サービス提供時におけるトラブル防止の為、所持しない事とさせて頂いております。金銭管理等は、ご家族に依頼をさせて頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用開始の時点で、社会交流等の面で、活動域が低下されている方が多く、電話や手紙のやり取りをされていない事が現状。遠方に住むご家族や親類などからの電話は、取り次ぎ介入支援を行っております。携帯電話を所持されている方もおられ、電話の扱いが分からなくなった時など、介入支援を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	散歩へ行った際に、野花や季節の花をご入居者様自ら摘んで、花瓶に刺して飾ったりされております。また、室内から見える場所にプランターを設置し、季節の花を職員と一緒に植えて頂く事も行っております。気候に応じ、室温や湿度、換気などに配慮し、季節の花を飾ったり、環境整備に努めております。	玄関は2重扉となっている。一直線の長い廊下が印象的である。天井が高く広く明るいロビーがある。ロビーや自室の大きな窓からは三瀬の四季を感じることができる。掃除は利用者と職員が一緒に行っている。清潔で臭いも感じない。ロビーには手作りの大きなカレンダー、本箱には週刊誌などがあり、利用者は思い思いに過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みのテーブル席の配置。気の合う少人数で過ごせるよう、居心地の良い居場所作りに努めております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室にトイレ、洗面台、エアコン、ベッド、空気清浄機、照明、クローゼットを完備しております。自宅で使用されていた馴染みのタンスや椅子、小物など、ご本人、ご家族と入居前に居室内の見学をして頂き、必要な物を検討して頂き、ご本人、家族が好まれる居室空間・環境ができるよう、持参・協力等を頂いております。	居室は長い廊下の片側に9室並び中央に職員の記録室がある。夜間は利用者の様子がランプで確認できる。入口には利用者と職員で作成した名札が掛けられている。迷う方のためにわかりやすく大きく表示されている。好みの植木や趣味のツボ、写真などが持ち込まれている。障害物もなく整理整頓されている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計、動線域において障害物に配慮し、廊下やトイレ内に手すり等を配置し、安全性の確保に努めております。 できる限り自力で移動、日常生活を過ごして頂けるよう支援に努めております。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない